

ひとろひとつ

その文句と云うことはいつとある

生活の中を繰るふちなる、己の心
私自身

しうきんうちには深うている

今朝ほしし物をとりし
台所へ行つた

台所のほしし物のところへ行きてくまひ

いらんかンボールを足でとりかきいたり

ルンがーが
かやるところかたにたかひ

たおいてみろのちきおし
紙づくしが

歩
かかろてりりとも
とりのちきんかろ

日始すか行つた
ふりかえり

トト見ると
せこちうばか洗つた食器

の年か五言か
トースターの上のて

いと重ううなトしイがある

たつた一々の物を取りに行くと
お水や

それか少しづつ
ながながと

三千分ほにかかると

手は少しづつ
両手かたよりた

あちろとつかまひ
たよつたり

のちのあかやで
目的の物を動かすると

かま来た

想像

我が家のうらぐらぐら想像心だ

完白もう少しと言ったをわりの

がまんこやゆんばい一向に守りたは守り

しんし 奪えようだ

今日目的を達することか来た

川さ守まのてま ここ迄待つて来られたが

うれし

少しづつ来たようには戻って来たらしい

えろ少しがまん可かほ

ひとづつ 来たようには戻り

人にたよるが ほかか来たる そとの人

9 本葉の塩だ

我が家と人同様に ひとづつ ひとづつだ

明日はもうひとづつだ

2021
6/9